

おらみネット

●発行日 / 2012年9月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

元気印 NPO ①

花や緑を取り戻しつつ
シニアの健康維持を

まちづくり

特定非営利活動法人

アクティブ近江富士

2

伊吹山もりびとの会

6

NPOのIT活用術

株式会社エスサーフ

5

世間よし〜企業の社会貢献〜

地域プロデューサーをめざして

特集★OHMI視点
〜おらみ未来塾第12期スタート〜

1

元気印 NPO ③

すべての子どもたちに
自信と希望を

多文化共生

ワールドアミーゴクラブ

6

元気印 NPO ②

子育てママの
不安の解消を応援

子育て支援

特定非営利活動法人

マイママ・セラピー

4

地域プロデューサーをめざして

六月九日(土)、大津市のコラボ21を会場に、おうみ未来塾第十二期入塾式が開催され、十八か月にわたるプログラムがスタートしました。入塾式で行われた、北村裕明塾長による開講記念講演と、三人のアドバイザーによるパネルトークの内容をご紹介します。

おうみ未来塾第十二期開講記念講義 おうみ未来塾がめざしてきたもの

おうみ未来塾塾長 北村 裕明 さん

入塾おめでどうございます。未来塾十一期十三年間にわたる活動の内容を振り返りながら、未来塾が目指してきた地域プロデューサー養成について、また今後の問題について語り合いたいと思います。

●地域プロデューサーの条件

一つは、市民力です。公共サービスの顧客という立場から、新しいサービスを実際に作り出し、既存のサービスを改善するという市民本来の権利と責任を持った市民であること。そして、行政との関係を築きながら行政の力を活用する、今日の言葉で言うと、行政とのパートナーシップを形成する能力を持つということ。二つ目は、事業

力です。事業を興し継続する力が必要になります。地域のために一肌脱ぐ、その思いに支えられた事業力が重要です。三つ目は、ネットワークキング力。思いやミッションの輪を広げ、人の輪を広げて行くネットワークを創り出す力も地域プロデューサーには必要不可欠な要素です。

●未来塾の優れたグループ活動から学ぶ

未来塾からは「セブンドロップス」(一期生)「ひょうたんからK O M A」(七期生)「おうみこっこん夢つむぎ」(十期生)など、数々の優れたグループ活動が生まれました。そこから学ぶことは、地域の固有資源を発見して活用すること、そして人と人とのつながり、ソーシャルキャピタル(社会関係資本)を創りあげていくこと、新しいお金の流れを作り出すことの大切さです。そしてグループ活動の学習効果は大きく、分権社会を特徴づける協働の体験をしていくことができます。

●東日本大震災が私たちに提起しているもの

東日本大震災は、地域リーダー像の変換を迫っていると私は思っています。地震・津波・原発事故は経済成長優先で集権的な社会運営への抜本的反省を促し、持続可能で分権的な社会運営の展開が本格的に求められています。また、復旧・復興過程における国と地方の関係では、地方の知恵が生きるスピード感のある



北村 裕明(きたむら ひろあき)さん

1976年京都大学経済学部卒業。1981年京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。1981年滋賀大学助手、講師、助教授、教授を経て、2010年より理事・副学長。財政学・地方財政論・非営利組織論担当。1999年～2001年、2004年～2010年おうみ未来塾運営委員会委員長。2010年よりおうみ未来塾塾長。

おうみ未来塾の 特徴と仕組み

1 おうみ未来塾の特徴

- 塾生の主体的な参加による塾づくり
塾生の主体的な参加による塾活動を行います。カリキュラムについては、その骨格は示しつつ、塾生の意向や学びの状況を踏まえ、柔軟性をもった内容で作ることを基本としています。
- 多彩な塾生で構成
地域や分野、所属、世代を超えた多彩な塾生で構成されています。多彩な経験と視点を持つ塾生が、互いの学びを共有したり、討論を重ねながら、塾生のつながりを深め、相互に高め合う関係を作ります。
- 地域や活動の現場からの学びの実践
講義を聴いて理解するだけでなく、市民活動やNPO・まちづくりが実践される現場のフィールドワークを通して、草の根から地域や社会を変えるものの見方や考え方を学びます。
- 幅広いネットワークの形成
様々な機会が地域や市民活動のキーパーソン、企業や行政、またそれぞれの地域で活躍する卒業生など、多様な主体と幅広いネットワークをつくりながら地域プロデューサーについて学び実践します。



代表 ● 掛樋 邦章 (かけひ くにあき)
設立 ● 2006年
会員 ● 28人
連絡先 ● 事務所：野洲市近江富士2-9-23
TEL:077-532-4838 (平日10時～15時通話可)
URL：http://www.eonet.ne.jp/~act-oumifuji/

アクティブ85 (85歳まで元気に活動する)を目指して! 「緑化活動」と「パソコン教室」で元気なまちづくり

三上山の麓に約40年前にできた近江富士団地の住民有志で構成されています。かつて宅地開発で失われた花や緑を取り戻そうと1994年、当時働き盛りだった



▲野洲市の公園「さくら緑地」の管理作業の様子。掛樋の名所となり、毎年多くの人が訪れている

住民約30人が任意団体「近江富士さくらの会」を発足しました。寄付を募って団地内の公園や隣接する河川敷に約230本の桜を植樹・管理を続けたところ、長年の実績が評価され、約21,000mの広さを誇る野洲市の公園「さくら緑地」の管理を市から任されました。これを機に誕生したのが「アクティブ近江富士」です。

「当初公園にある桜はやせ細り、立ち枯れもありました。ひどい状態でした」と代表の掛樋さんは振り返る。団体のノウハウを駆使して、施肥や消毒、剪定などを根気強く続けた結果、近年、花見の時期ともなれば駐車場から車があふれるほどに人が集まる桜の名所となったのです。

活動日は原則月3回で1回3時間。「健康でワイワイと活動



▲個々のニーズに合わせたパソコン教室。自治会の資料づくりや年賀状づくりなどに役立っている

ができ、ちょっとばかりのお礼も出る。これが継続のヒケツです」とほほえむ理事の浦田英昭さん。根底に社会貢献や健康維持があることで活気ある活動につながっているという。副理事長の野口義昭さんは「数ある助成金をうまく活用していくことも長続きの理由の一つ」と付け加える。

他にも住民が講師となってパソコン教室を週1回開き、団地内交流も図っています。掛樋さんは「親睦会も盛んです。今後もこの調子で元気に活動を続けたい」と力を込めた。

(おうみネットサポーター 中塚一恵)

大胆な国レベルの政策展開が必要とされています。さらに、ボランティアや寄付等民間レベルの支援と、協働型の復旧・復興政策の作成と実施が大切になってきます。

食とエネルギーについては、改めて地域で創り出すことの重要性が指摘されるようになってきました。ローカルなレベルで農林漁業とエネルギーを再生すると同時に地域の雇用を創り出す必要性を、3.11の震災は私たちに教えてくれたのではないで

● おうみ未来塾の成果と課題

おうみ未来塾は十三年十一期で二六〇名の卒業生を送り出す

でしょうか。その意味で、分権社会の構築は日本の未来を創り出すことであり、分権の制度改革と同時に、草の根の優れたリーダー(地域プロデューサー)と、その力が発揮できる「地域社会のしくみ」が必要とされてきている、そういう時代になっていると思います。

ことができ、市民活動の担い手の養成講座として全国的な評価も受けるようになりました。他方で、いくつかの課題も出てきています。個人のスキルを伸ばすことが十分に出来ているか、卒業生がもっと運営に参加できないか、またグループ活動の実践を政策に反映させ、事業化する取り組みができるかどうか、と念頭に置きながら、今後の運営と学習サポートに全力をあげたいと思っております。

Column

2 仕組み

受講期間は原則として約十八カ月となります。

■基礎実践コース(六月～十二月)

各地でのフィールドワークを中心に、概ね月一回の講義を行います。

■創造実践コース(翌年一月～十一月)

地域の具体的な問題をテーマにグループをつくり、調査を行い、活動や展望を検討し、地域での実践を通して学びます。



▲地域を肌で感じながら地域活動の実践者と直接意見をかわす塾生達

「地域プロデューサーについて語る」

北村 おうみ未来塾開講記念講義の後半は、三人のアドバイザーに、地域プロデューサーについて具体的に語っていただき、塾生の皆さんにイメージを深めてもらいたいと思っています。

各アドバイザーの考える地域プロデューサー像は？

岡崎 高度経済成長期の地域プロデューサーは、道路や橋・学校の建設など社会資本の整備という意味合いがありました。これが昨今非常に大きく変わったと思います。社会資本の整備から、社会・関係・資本と呼ばれる、地域社会の連帯性やネットワークを構築することが重要なテーマとなってきました。そのため、地域プロデューサーは従来タイプの議員、町の有力者といった人々から、地域の課題解決に向けて動こうとするまちづくりの担い手に移ってきています。

そのために、重要なのは「臨床性」です。実際にその地域に足を下ろして、地域の人々の思いとともに課題を発見し、目に見える形にしていく。そういう「臨床性」が必要だと思っています。

岸田 私はパートナーシップサポートセンターという団体で、市民活動に多様な主体を巻き込んでいくための活動をしています。特に、企業をどのように巻き込んでい



岸田眞代(きしだ まさよ)さん

大学卒業後、商社勤務、新聞・雑誌記者、経営コンサルタント会社等を経て(有)ヒューマンネット・あい設立。企業・行政研修講師。1993年NPOと出会い、94年名古屋で初のNPOセミナーを開催。96年「企業とNPOのパートナーシップツアー」を企画実施。98年パートナーシップ・サポートセンターを設立。2000年「パートナーシップ評価」発表。2002年に「パートナーシップ大賞」を創設した。1999年～2010年おうみ未来塾運営委員委員。

くかが大きなテーマです。それはまさに私自身が一九九三年にNPOに出会って、この活動に企業を巻き込んでいかないと、恐らくNPOだけの力で市民活動を展開していくのは難しくなっていくだろうと思っただけです。

日本社会の中で企業は非常に大きな位置を占めていますから、社会と連携できる能力を持った人たちが企業の中にも育っていかばそれが、企業と地域をつなぐという意味で、まさに地域プロデューサーになっていくだろうと感じています。

藤井 初代塾長の日高先生の言葉に「Locally, Act Locally」というのがあります。当初は、「菜の花プロジェクト」が普遍的なことにつながると思っていまじませんでした。人口五千七百人の旧愛東町で、食とエネルギーの地産地消を掲げて菜の花プロジェクトを立ち上げ、二十一世紀型のモデ

コーディネーター
パネリスト
アドバイザー
アドバイザーとは

塾長 北村裕明さん
岡崎昌之さん(法政大学現代福祉学部 大学院人間社会学科 教授)
岸田眞代さん(NPO法人パートナーシップ・サポートセンター代表理事)
藤井絢子さん(NPO法人菜の花プロジェクト・ネットワーク代表)
学識経験者や地域づくりの実践者で構成され、塾の運営方法や塾生の活動に対してアドバイスをします。

ルを地域の人々と一緒に作り始めました。それから二十年たつて、今菜の花プロジェクトは全国で約一六〇か所、そして韓国、中国、モンゴル、チエルノブイリなど海外にも広がってきています。そうした中で、徹底的に地域にこだわった活動は普遍性を持つということに、今更ながら気付いているところです。

未来塾は様々な分野の塾生が参加していますから、互いがそれぞれのビジョンを保ちながら一緒に活動を作り上げていくことで、もっと豊かになっていくことができそうです。この場で徹底的に地域にこだわって活動することは、国際的にも通用するものだと私は確信しています。

3.11を踏まえ、これからの地域プロデューサーに求められる資質は？

藤井 3.11後、特に原発事故のあった福島を中心に動いています。やはりエネルギーで自立した形を地域で作りたい、というのが思いの中にあり、菜の花栽培で放射性物質で汚染された土地や塩害に遭った土地を再生し、収穫した菜種油からバイオ燃料を作るといった試みに取り組んでいます。

食とエネルギーの自立の形を作るといことは、まさに3.11以降の日本がやらなければいけないことだと思っんです。放っておけば近い将来、日本全体の問題となることが集約されているので、今この地域でその形を作っていくことが、二十一世紀の未来可能性の第一歩になるのではないかと考えて動いているところです。

岸田 私自身は電力会社のある委員を務めているので、今、いろいろと意見を言っているところですが、利害関係がぶつかり合う部分が大いところですが、今はその中でどういう選択をするのかを、ともに向き合って真摯に考えることが必要な時期です。そこでそういうチャンスを作りませんか、という申し入れをしています。

直接的に行動を起こすことは難しいですが、自分たちの持ち場で何が

藤井絢子(ふじい あやこ)さん

上智大学文学部卒業。1971年守山市に転居後、湖南生協に参加。以後せっけん運動などに携わり、1989年環境生活協同組合理事長、1989年～2009年、同協同組合理事長。NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表。リサイクルせっけん協会会長、環境省中央環境審議会臨時委員、内閣府地域活性化伝道師、安土町まちづくり協議会委員、東近江あいとう菜の花館運営委員などを務め、環境問題全般について活動中。1999年～2010年おうみ未来塾運営委員。



代表●押栗 泰代(おしぐり やすよ)
設立●2000年 会員●15人
連絡先●大津市中央1丁目8-6
TEL&FAX : 077-511-9301
URL : http://www.mymama.jp/



0(ゼロ)からはじまる親子の絆づくり 産後の女性を支援する 「まちの保健室」



▲全6回で定員7組の「0歳児親子教室」。
タッチケアで“五感で感じる育児”を
実践

市役所を退職後、ボランティアとして関わった親子サロンで、母親の育児不安の大きさを実感した押栗さんは、出産後、少しでも早い時期に不安を解消できるよう応援する“お母さんのための保健室”をつくらうと、保健師の専門性と子育て経験を生かして

「マイママ・セラピー」を立ち上げました。

主な活動は、0歳児を対象にした親子教室とメールによる相談対応。保健師・幼稚園教諭・保育士等の専門職を中心としたスタッフは、看護や栄養、発達の仕組みなどを教えながら、不安や悩みに共感し、母親たちが持つ力を引き出す役割も担います。親子教室の参加者は、ピーク時で年間1,400組。卒業後も、メール相談を利用したり、サークルや活動を立ち上げたりと、マイママで生まれた絆がその後もつながっています。

「母親の不安を分析した結果、育児に対する未経験の不安と、一人の女性としての見通しが持てないことへの不安を抱えていることがわかったので、育児を通して女性が自分の



▲歯の成長、歯ブラシ選びやみがき方などについて歯科衛生士から説明を聞き、疑問をぶつける。

生き方を見つめ、進みたい方向へ行くことができるよう応援するという姿勢で取り組んでいます」と話す押栗さん。

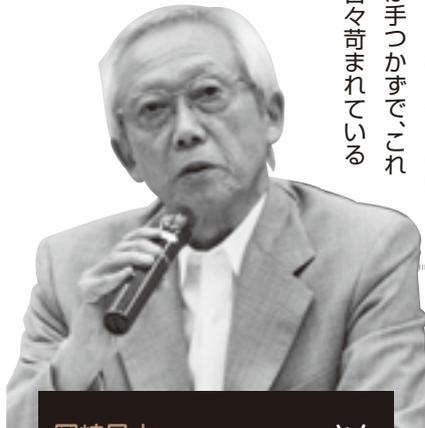
2011年の春には、大津市内の商店街にある町屋を借りて、念願の「マイママhouse」をオープン。“第二の実家”のような場づくりをめざします。また、「まちの保健室」を採算がとれる新しい公共事業のモデルにしようと、現在、保健室運営のマニュアル化や産後女性を支援するためのガイドブックの商品化に向けた検討が進められています。

(おうみネットサポーター 小林由季)

出来るかを問いつけることが大切です。例えば過去に作った災害マニュアルが、実際にはまったく使えないことが分かったとき、それを反映させていくのが我々の役割だろうと考えています。

岡崎 先日も宮城県を訪れたのですが、がれきは被災直後から、移動されてはいないものの、量的には手つかずで、これからどう関わるか日々苛まれているという状況です。

地域を深く集落レベルから知ること、ということは、実はとても困難なことです。私はここ六



岡崎昌之(おかざき まさゆき)さん

早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。(財)日本地域開発センター企画調査部長を経て1994年から2000年まで福井県立大学教授。2001年より法政大学教授。専門は地域ツーリズム論。自治体学会代表運営委員、地域づくり団体全国協議会会長、まちづくり市民財団理事、放送大学客員教授、総務省人材育成アドバイザー、国土交通省国土審議会政策部会専門委員。国土交通省観光政策審議会専門委員他を歴任。

年間、東北六県と新潟県で集落をベースとした住民のまちづくり活動を支援してきましたが、その付き合いの中で、集落に関することの困難さを痛感しました。そこには非常に複雑で多層な歴史があり、人間関係があるからです。地域プロデューサーとしてこれから関わるべき、そ

十二期生への期待のメッセージ

の点を十分に踏まえながら深くコミットして欲しいと思います。

岡崎 東日本大震災で学んだことは、自治体と住民が組んで、自分たちの選んだリーダーの下で行政体を運営していくのがいかに大切かということです。平成の大合併で市に合併されて町長がいなくなった所では、震災時に孤立し、多くの決断が出来ませんでした。その意味で今後は危機管理に

もとづいたまちづくりがテーマになると思います。

岸田 これまでの未来塾で私が一番感動し

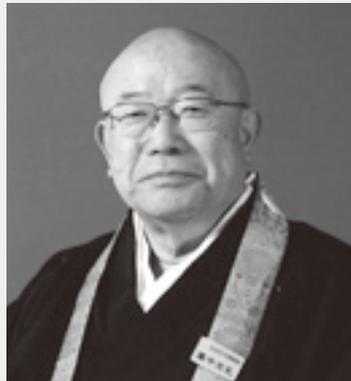
たのは、最後の発表で、入塾から卒業の間の成長の度合いを感じ取れたとき、涙するほど感動しました。活動を続けていくとき、必ず困難が伴ってきますが、そのとき、記録して振り返ることができるようにしておくのが大切だと思っています。ぜひこの期間を大事にしてください。

藤井 三十人の塾生の方それぞれに素敵なカラーがあります。チームが出来て、十八か月後にどう変わるか、そのプロセスを私たちも一緒に成長していきたいと思っています。また、琵琶湖に心を寄せて、自分の言葉で琵琶湖を語り表現する、そんなプロデューサーになっていただけたらと思っています。

市民活動への期待

民生委員活動を通して

私は35歳で民生委員を拝命、65歳で退任、丁度30年間務めさせていただきました。母との約束で大学は四年間、勤めは三年間好きなようにしてよいが七年したらお寺に帰れということでした。喜び勇んで上京、政経学部で学び、学生生活を満喫、勤めは会社で営業活動、苦しくも楽しい遣り甲斐もある三年間でしたが、約束通り、帰りました。その母も翌年、呆気なく亡くなりました。当時はお寺の仕事も住職がこなしており、空しい時間を過ごしていました。暫くして大字区長さんに民生委員をやれといわれ、若輩ものではありましたがその活動に打ち込み、色々な体験をさせていただきました。二十代に他人と同じ釜の飯を食べ、辛抱を知り、協調性を学び、三十代には田舎も都会もそう変わらないケースが出はじめた頃の社会の中での民生委員活動に打ち込み、学問僧にはなれませんでした。働く僧侶としては僅かではありますが地域に貢献できたかなと思っています。母の英断と民生委員という貴いお役を頂いたことに感謝しております。



人と企業と NPOをつなぐ

HI・RO・BA



地域力を高める
メッセージコーナー

金剛輪寺

住職 濱中 光礼(はまなか こうれい)さん

世間よし ~企業の社会貢献~

企業に限らず、市民と行政、行政と企業などの、新しい市民協働(パートナーシップ)のカタチを紹介します。

SEKENYOSHI

株式会社エスサーフ

滋賀県大津市玉野浦6-30 TEL 077-543-3300
URL: <http://www.ssurf.co.jp/index.html>

生産者と消費者をつなぎ、地酒振興の大きな波をおこす

株式会社エスサーフは、江戸時代末期、滋賀県の造り酒屋への蔵人を派遣する「北国屋」がルーツです。滋賀の地酒振興を続けながら時代の大きな波を乗り越えて酒類食品の卸売業に移り変わり現在にいたります。「滋賀県は気候風土に恵まれていてお米もおいしい。この素晴らしい地域で造られたお酒を広げることが我々の使命」と営業部第一部次長の武田さんは言います。

お酒は大手流通業者が低コストで販売される時代のなか、エスサーフは滋賀の地酒にこだわり多くの種類をそろえているので、県内の小売店やスーパーから滋賀の地酒に関しては多くの信頼を寄せています。創業の江戸時代末期から受け継がれている滋賀の地酒振興への思いとして「私たちはこれまでつちかってきたお酒



▲地酒振興を目的にイベントにも積極的に参加されている

の流通経路を使い、地域の蔵元さんが一生懸命つくられたお酒を広げる流れをつくっていきたい。」と武田さんは語られます。

エスサーフの経営方針は「地球環境との共生を目

指す」。2001年6月には、酒類卸売業としては日本ではじめてISO14001を取得されました。また、地球温暖化を防いでくれる森林を守り育てよう!と、本格焼酎「緑の地球」の売上の一部を使い、びわこ地球市民の森での「緑の森」をつくる植樹活動も行われています。「これからもこの活動が続くように地域で環境活動をする市民活動団体とも連携も考えて活動を広げていければ」と思いを語られました。

最後に、今後の展望を聞いてみた。常務取締役管理本部長の佐倉さんは、「引き続き清酒にかぎっては県産酒の存在価値を高めていくことを我々が担っていく」、武田さんは、「地酒振興の目標意識を持って積極的に活動をしていきたい。生産者、消費者をまきこみながら、我々も一緒になって地酒が広がっていく流れをつくりたいと思います」とお二人とも熱いです。これからもエスサーフという社名にあるように、地酒振興の大きな波=サーフをおこされていくと感じました。

(淡海ネットワークセンタースタッフ 膽吹 憲吾)



▲家族の参加もある植樹活動の様子

代表●吉積 尚子(よしづみ ひさこ)
設立●2002年 会員●17人
連絡先●(財)近江八幡市国際協会
近江八幡市役所 まちづくり支援課 内
TEL:0748-36-5552
FAX:0748-36-5553
E-mail:010406@city.omihachiman.lg.jp



世界中のすべての子どもたちが、 自信と希望を持って生きていける、そんな“多文化共生社会”を目指します！！

素晴らしい世界が、そこにはありました。“多文化共生社会”を目指す熱い想いと希望に燃えた人たちの人間ドラマを垣間見ることができました。

「ワールド アミーゴ クラブ」とは、その名のとおりに、世界の仲間が集う場所。毎週土曜日10:00～12:00、近江八幡市人権センター

を拠点に活動しています。その創設からこれまでの変遷の過程を追って見ましょう。2000年、外国籍児童の保護者から、子どもの教育に関する相談が市に寄せられたのをきっかけに、実行委員会が組織され、2001年にラテンアメリカ出身の子どもたちを支援する「ラテンアメリカ子どもクラブ」が創設されました。2002年には、市民が運営主体となり現在の名称に変え、滋賀に生きる世界の子どもたちへと支援のウイングが広がられました。活動内容は日本語指導、学習支援だけでなく、心の居場所作りへと広がっています。

活動を支えるのは、行政、学校、地域住民によるボランティアです。近年は、県立大学公認ボランティア団体「バンディラ・ジ・オーロ」(ポルトガル語で「金の旗」・代表 石田みずきさん)という力強い支援も寄せられています。

代表の吉積尚子さんが、多くの仲間たちの支援に感謝しながら、「最近、高校進学への夢を実現する子どもたちも、徐々に増えてきました。そして、その子どもたちが、今度は支援する立場で顔を出してくれます。すべての子どもたちが、自信と希望を持って生きていける、そんな“多文化共生社会”を目指したい。」と、明るくそして力強く、

未来への希望を語っておられたのが印象的でした。

(おうみネットサポーター 荒木 威)



▲全員集合！スタッフと生徒の皆さんです。まさにワールド。国籍を超えた笑顔に、真の“多文化共生”が見えてきます。



▲学習風景。1対1。真剣なまなざしに圧倒されます。双方の熱い想いが、こころに響いてきます。

NPOのIT活用術！

伊吹山もりびとの会

<http://mt-ibuki.jp/>

伊吹山の魅力がいっぱい！
訪れたい情報満載



滋賀県最高峰の伊吹山は、古くから霊山として信仰を集め、高山植物の宝庫として今も多くの人々が訪れるところ。伊吹山もりびとの会は、そんな伊吹山の自然環境を守り、訪れる人と共存できるよう、登山道、遊歩道の保全や自然観察ガイドなどの活動に取り組んでいます。ホームページのトップには、美しい伊吹山の高山植物の写真が掲載されていて、ページを開くと伊吹山山頂へと誘われていきます。伊吹山の地勢や気候、歴史などの基礎知識から登山ルート、遊歩道のルート、自然観察会の案内まで訪れてみたい情報が満載。会で製作された、お花畑植物ガイドブックをネット販売されていて、その収益を活動費に当てているということです。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

ひと回り成長できた おうみ未来塾

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

8期生 山田 直美(やまだなおみ)
グループ：中山道410(よいわ)

おうみ未来塾では、特にグループ活動で多くのことを学びました。自分の活動分野だけではなかなか出会うことがない人たちと過ごすことで、学んだことが大きく3つあります。

①多様な人と活動をつくることのおもしろさと大変さ。激しい議論になることも多くありましたが、だからこそよりよい活動になりました。②自分がどこまでできるか判断することの重要性。主体的に関わる活動なので、誰かがやらないと進みません。自分がやるといったからにはきちんとやらないと、迷惑になります。③コミュニケーションの大切さ。約束を守らない人には、困るときちゃんと伝えること。助けってもらったらありがとうということ。これらの積み重ねによって、チームワークが良くなりました。そして、様々な年代の素敵な仲間ができました。

卒塾してすぐ結婚し、新婚旅行で中山道を歩くことにしました。その時、グループの仲間がスタートの日本橋までわざわざかけつけて、見送りをしてくれました。また、滋賀県に入ってから、応援やセレモニーなど盛大に企画してくれて、とても感激しました。

現在は、長野県で市民活動団体「わおん♪」を設立し、活動しています。おうみ未来塾での経験を活かして、長野県にも未来塾のような学び多き実践型の講座ができればいいなと思っています。



講座

NPO ミニ講座・NPO 会計
はじめの一歩講座のご案内

NPO の設立・運営・会計についての各講座を毎月第2金曜日に開催します。

NPO ミニ講座は、NPO 法人の設立・運営について、また NPO 会計はじめの一歩講座は、NPO の会計を初歩から説明します。ぜひご参加ください。

◇開催日時

9月14日(金)、10月12日(金)、11月9日(金)各日
NPO ミニ講座 13:30 ~ 14:30
NPO 会計はじめの一歩講座
14:30 ~ 15:30

◇開催場所: 淡海ネットワークセンター ぷらっとルーム

◇参加費: 無料

◇内容: ガイダンス、制度、手続きの説明など(参加される方のご希望に合わせて)質疑・相談など

◇お申込み: 開催日の前日までに、電話・メール・FAX 等により、お名前と参加者数を淡海ネットワークセンターまでお知らせください。

お知らせ

認定 NPO 法人、市民事業の充実などをめざす団体支援をします!

滋賀県新しい公共支援事業を受託して、市民活動団体の個別支援を行っています。団体の事務局を訪ねじっくりとお話を聞きます。ご相談や支援を希望される場合は、淡海ネットワークセンターへご連絡ください。

◎認定 NPO 法人をめざす・認定 NPO 法人について知りたい

寄付を集めて安定的、継続的な活動につなげる認定 NPO 法人をめざす団体への支援として、認定に関する要件の説明や認定に向けての課題解決のお手伝いをします。

◎市民事業の充実をしたい

サービスの提供や販売など市場をとおして地域課題の解決をめざす市民事業を充実したい団体の支援として、事業の整理や PR 戦略などのお手伝いをします。

◎合併・解散を考えている

一定の目的を達して解散する団体や合併を希望される団体に対する手続きのサポートをします。

講座

活動計算書
ミニ講座のご案内

活動計算書についての講座を毎月第3金曜日に開催します。活動計算書についてハンドブックをもとにわかりやすく説明いたします。会計初心者の方も大歓迎! ぜひご参加下さい!

◇開催日時

9月21日(金)、10月19日(金)、11月16日(金)各日
活動計算書ミニ講座 14:30 ~ 15:30

◇開催場所: 淡海ネットワークセンター ぷらっとルーム

◇参加費: 無料

◇内容: 活動計算書の説明など

◇お申込み: 開催日の前日までに、電話・メール・FAX 等により、お名前と参加者数を淡海ネットワークセンターまでお知らせください。

講座

おうみ未来塾
公開講座のご案内

おうみ未来塾は、地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」を目指して、滋賀県の様々な地域でまちづくりなど市民による活動を学んでいます。今回は、おうみ未来塾12期生の講座を一般公開講座として開催致します。地域づくりや市民活動を進めるヒントを見つけに来て下さい。

◇テーマ: 地域と共に創る食とエネルギーの自立に向けて

◇日時: 9月16日(日) 13:00 ~ 15:00

◇場所: あいとうマーガレットステーション

◇講師: 藤井絢子さん(NPO 法人菜の花プロジェクトネットワーク代表)、曾根原久司さん(NPO 法人えがおつなげて代表理事)

◇参加費: 1,000円

講座

共感とともに夢と想いを実現する
ファンドレイジングセミナー

地元の里山の環境整備をして、子どもたちに解放したい。地域に障がい児童も遊べるおもちゃ図書館をつくりたい。誰もが気軽に交流できる地域のカフェをつくりたい。

実現したい夢を多くの人の共感とともにカタチにするためのファンドレイジング(資金集め)について

学びます。ファンドレイジングの全国のさまざまな工夫や知恵を知り、自分たちはどんなファンドレイジングができるのか、一緒に考えましょう。

◇日時: 11月11日(日) 13:30 ~ 16:30

◇会場: 滋賀県立男女共同参画センター G-net

◇参加費: 500円(資料代)

◇講師: 鈴木 歩さん

(シーズ・市民活動を支える制度をつくる会)

※詳細はホームページをご覧ください。

編集後記

若手が60代、平均年齢70歳の団体でした。退職後に生き生きされている皆さんを見て、地域に自分の居場所を見つける大切さや幸せさを実感させられました。「アクティブ85」、応援しています!

(おうみネットサポーター 中塚一恵)

「どんな質問にも絶対に笑ったりしない」という専門性を生かした対応がマイママ・セラピーの特徴の一つ。でも一番の強みは、「楽しくて仕方がないんです!」と話されるスタッフの皆さんの充実感とチームワークだと思いました。

(おうみネットサポーター 小林由季)

市民が主役。まさに「新しい公共」のあるべき姿がここに有る。しかも、市民・行政・大学...と、三者のコラボが見事でした。後に続く者として、勉強の機会と勇気を与えていただいた今回の取材に、こころから感謝しています。

(おうみネットサポーター 荒木威)

淡海
おうみネット 83

●2012 秋号●



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPO をサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801

大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

■TEL 077-524-8440

■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com

■E-mail: office@ohmi-net.com

開館時間 / 9:00 ~ 17:00

休館日 / 月曜日・祝日

●情報交流紙「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内大学、県内 NPO 法人、県内市民活動センター、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館 さくら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県民情報室など

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

M・H通信

MOH communication

☆ http://www.mohmoh.jp/ http://moh.shiga-saku.net/ ☆

中小企業相談センター事件簿

新江州(株) 取締役会長 森建司 著

定価 2100円

四六版/上製/総384頁

「身につまされる」と経営者の話題に!

心に残る本づくり サンライズ出版 (滋賀同友会会員)

〒522-0004 滋賀県彦根市島原本町 655-1

TEL 0749-22-0627 FAX 0749-23-7729

E-mail info@sunrise-pub.co.jp URL www.sunrise-pub.co.jp



この印刷物は再生紙を使用し、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。